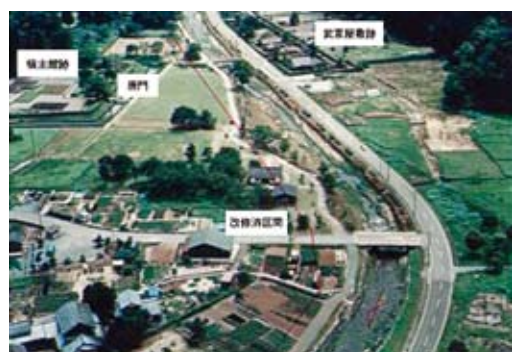




福井市南部にある一乗谷は、一乗谷川に沿って連なる谷底平野ですが、戦国大名朝倉氏の城下町として、往事は1万人以上の人口が集積し、戦国時代有数の都市として栄えていました。しかし、天正元(1573)年に織田信長の焼き討ちにあって城下町は消滅し、その遺構は長く地中に埋もれたままでした。その発掘調査は昭和42(1967)年度から始められ、昭和46(1971)年には谷全体278haが国の特別史跡に指定されています。また、平成16(2004)年には地元団体や福井県、福井市などにより「一乗谷朝倉氏遺跡活用推進協議会」が設立され、「越前一乗谷戦国ロマン再生計画」による地域再生の取り組みが進められています。現在では当時の町並みが一部復元され、多くの観光客が訪れています。

一乗谷川は、何度も水害に見舞われており、最近では平成16(2004)年の福井豪雨で大きな被害を受けました。この一乗谷川の改修は、地域住民の生命財産を守ることと合わせて、朝倉氏遺跡という国家的財産を守り、かつその歴史的景観とも調和した川づくりが必要とされています。

昭和63(1988)年度に「ふるさとの川モデル事業」の指定を受け、福井県では周辺の史跡との一体的な河川整備による景観形成とともに、ホテルや魚の棲める河川環境の再生をはかっています。河川改修に際しては、かつての外濠の一部と思われる石垣が発掘されたことから、堤防の線形を見直し、石垣を護岸の材料として活用しました。



朝倉氏遺跡と一乗谷川

また、史跡である公有地を利用した堤防の緩傾斜化や巨石積の採用により、植生の回復や歴史的景観形成に配慮しています。一方、福井市ではこれに合わせて「一乗谷川水辺空間再生事業」を実施し、徒歩で訪れる観光客の利便性を高めるため、遊歩道を兼ねた管理用通路の整備を実施しています。

なお、この一乗谷川の河川改修事業に対しては、社団法人全日本建設技術協会より、平成9(1997)年度の全建賞(協同部門)が授賞されています。

